

(2) 神奈川県警察の分析事例

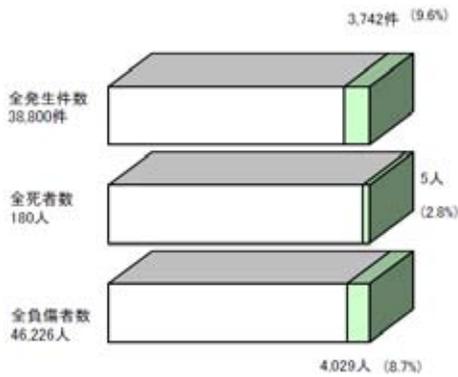
神奈川県警察「かながわの交通事故（平成 23 年統計）～子どもの交通事故」

[http://www.police.pref.kanagawa.jp/pdf/f0263\\_11.pdf](http://www.police.pref.kanagawa.jp/pdf/f0263_11.pdf)

発生推移

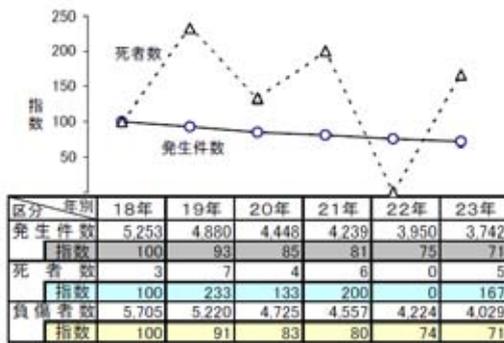
- ✓ 事故件数、負傷者数は減少したが、死者数は 22 年の 0 人から 23 年は 5 人に増加。

○ 全事故に占める割合



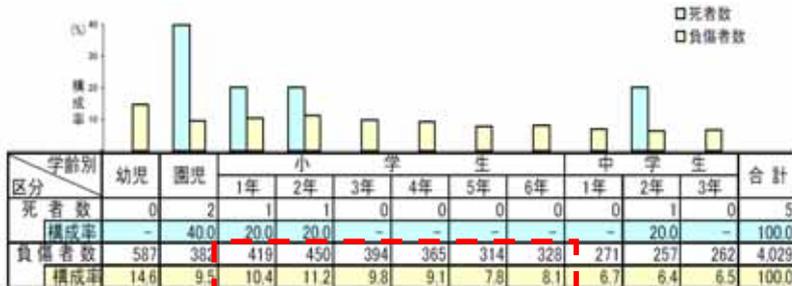
○ 年別推移

- ・ 発生件数、負傷者数は減少したが、死者数は 0 人だった22年から一転し、23年は5人に達した。

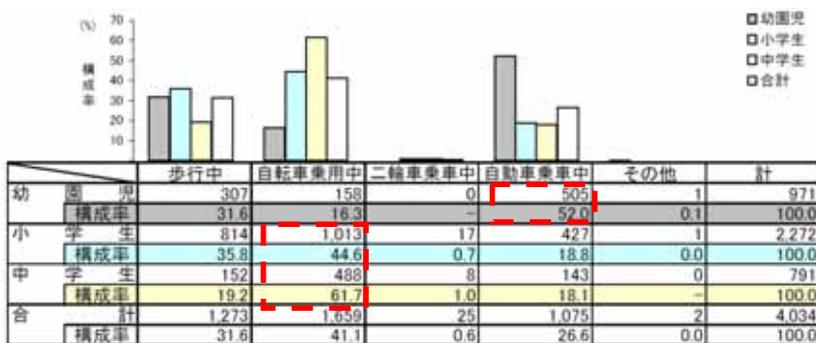


発生特徴

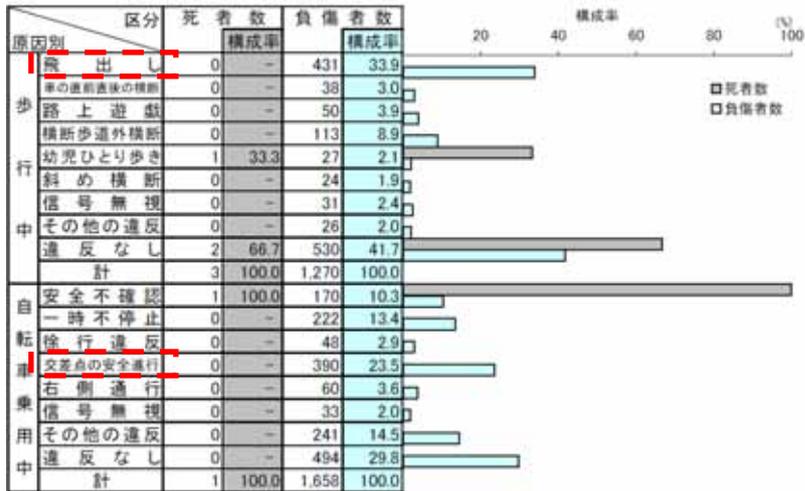
- ✓ 学齢別の負傷者数は、小学生が最も多い。



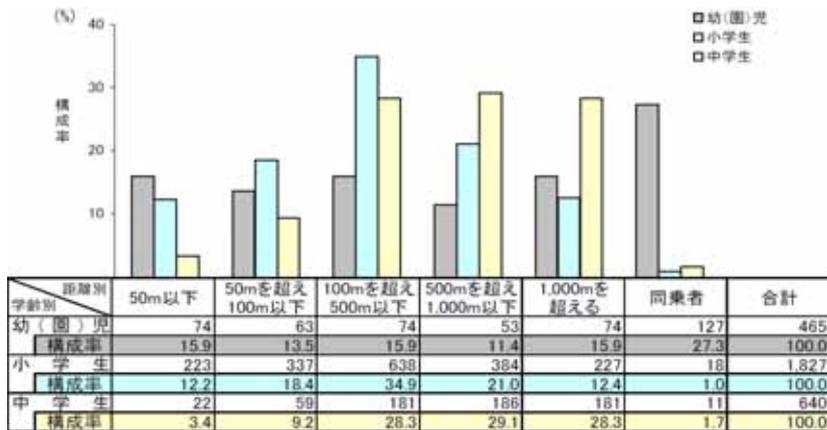
- ✓ 状態別の死傷者数では、幼稚園児は自動車乗車中の死傷者が多い。また、小学生、中学生は自転車乗用中の死傷者が多い。



- ✓ 歩行中の負傷者数の原因別では、違反なしが約4割と最も多く、次いで飛び出しが3割である。
- ✓ 自転車乗用中の負傷者数の原因別では、違反なしが約3割と最も多く、交差点の安全進行や一時不停止も多い。



- ✓ 歩行中及び自転車乗用中の死傷者数の自宅からの距離別では、自宅から500メートル以下が約6割である。



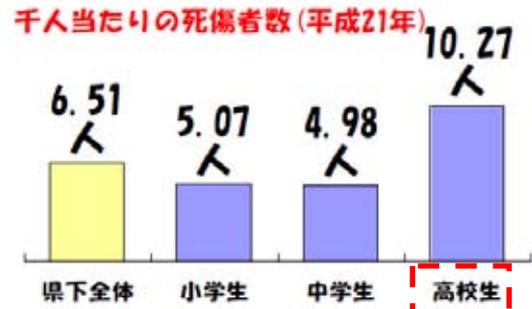
(3) 兵庫県警察の分析事例

兵庫県警察「交通研究所 小学生・中学生・高校生の事故発生状況」

[http://www.police.pref.hyogo.jp/seikatu/j\\_toukei/datafiles/infome/info-shoucyu.pdf](http://www.police.pref.hyogo.jp/seikatu/j_toukei/datafiles/infome/info-shoucyu.pdf)

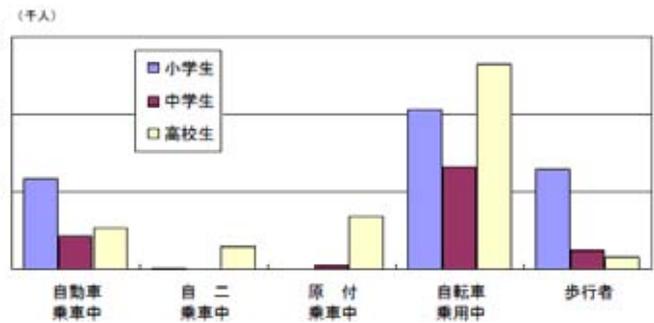
発生特徴

- ✓ 1,000 人当たりの死傷者数（平成 21 年）は高校生が多い。
- ✓ 1,000 人当たりの死傷者数（平成 21 年）は、高校生が 10.27 人と最も多く、続いて小学生が 5.07 人である。



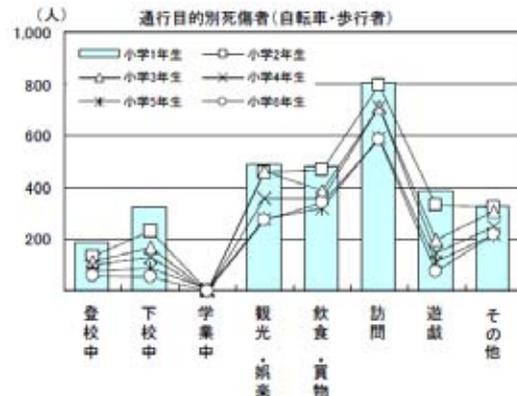
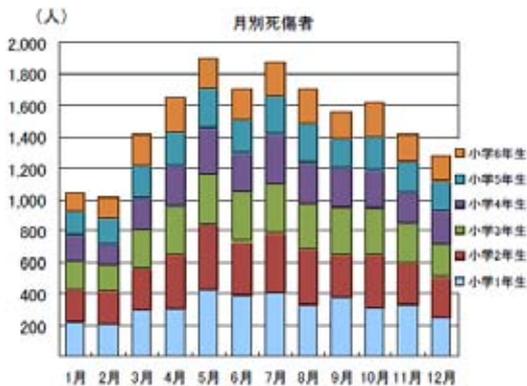
1,000 人当たりの死傷者数 (人) = 平成 21 年の死傷者数 ÷ 平成 21 年度の児童生徒数 × 1,000

- ✓ 状態別の死傷者数について、小学生・中学生・高校生とも自転車乗用中が多い。なお、小学生は、自動車乗車中、歩行者での死傷者数も多くなっている。
- ✓ 学齢別の死傷者数では、小学生、中学生は 1 年生、高校生は 2 年生が最も多い。

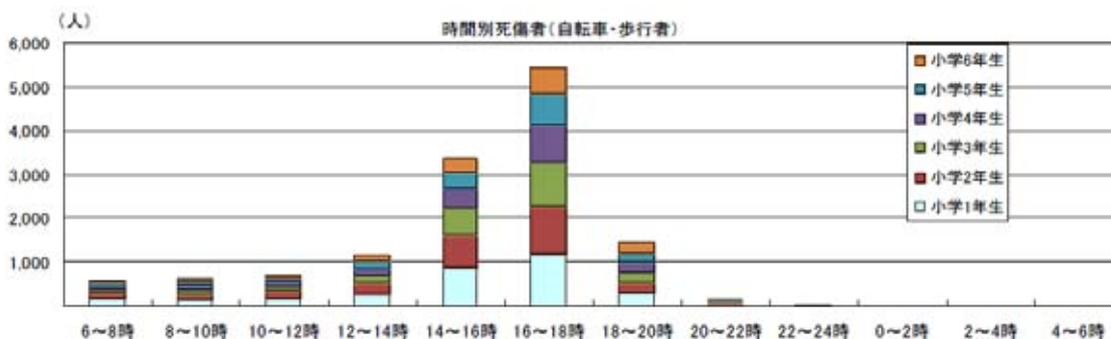


a . 小学生の死傷者数

- ✓ 月別の死傷数では、5 月が最も多い。
- ✓ 小学 1 年生の自転車・歩行者の通行目的別では、友人宅等へ訪問の行き帰りが多い。



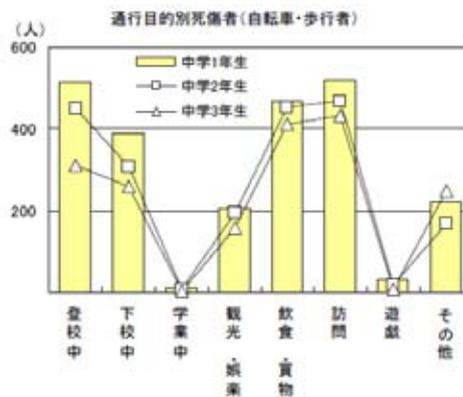
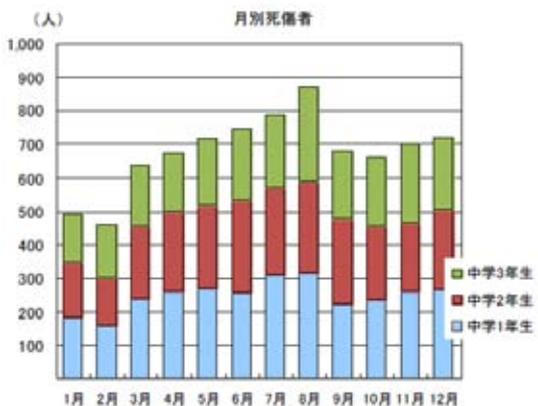
✓ 小学1年生の自転車・歩行者の時間帯別では、16～18時が最も多い。



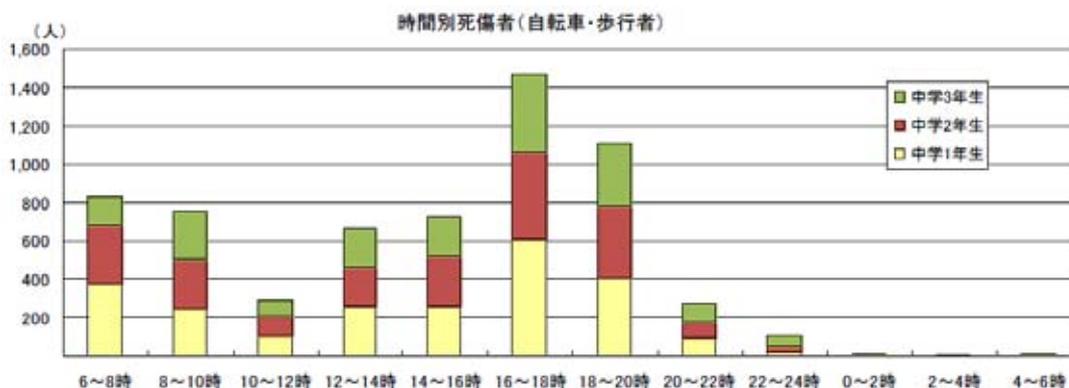
b. 中学生の死傷者数

✓ 月別の死傷者数では、8月の夏休み中が最も多い。

✓ 中学生の自転車・歩行者の通行目的別では、訪問が最も多い。

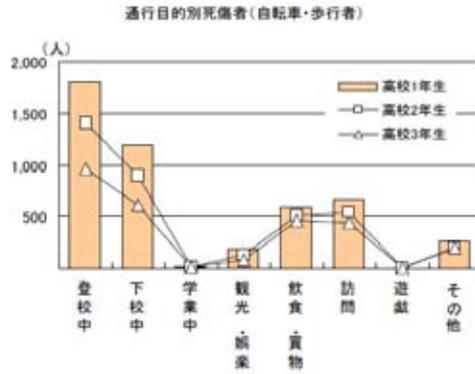
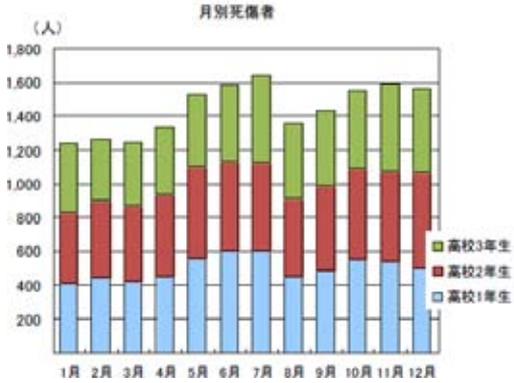


✓ 中学生の自転車・歩行者の時間帯別では、16～18時が最も多い。

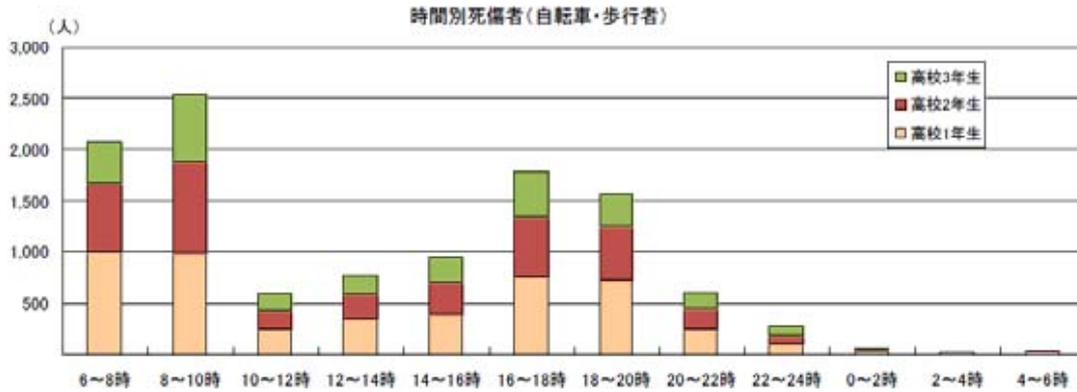


c. 高校生の死傷者数

- ✓ 月別の死傷者数では、5～7月が多い。
- ✓ 高校生の自転車・歩行者の通行目的別では、登下校中が最も多い。



- ✓ 高校生の自転車・歩行者の時間帯別では、8～10時が最も多い。



(4) 宮城県警察の分析事例

宮城県警察「平成 24 年の発生状況(6 月末現在)～中学生以下の子どもの交通事故発生状況」

[http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/kikaku/shiboutoku/jiko\\_tokutyou/h24/kodomo.pdf](http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/kikaku/shiboutoku/jiko_tokutyou/h24/kodomo.pdf)

発生推移

a. 事故発生件数

- 平成 17 年以降、緩やかな減少傾向にあったが、平成 22 年に 6 年振りに増加に転じた。ただし、翌 23 年は再び減少している。



b. 死傷者数

- 負傷者数は、平成 16 年以降、減少傾向にある。死者数は、平成 23 年は 2 件 2 人（歩行中 1 件、自転車 1 件）の発生となった。

区分	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
件数	906	961	1051	1007	950	911	807	712	757	688
死者数	4	4	4	5	2	4	1	1	1	2
負傷者数	1,019	1,082	1,223	1,137	1,121	1,042	909	832	865	815

- なお、平成 24 年は 6 月末時点で死者 1 名となっている。

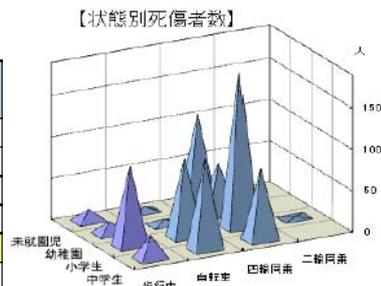
【死亡事故の概要】 平成 24 年 5 月 12 日午後 3 時 15 分頃、仙台市泉区館地内の市道交差点付近において、53 歳女性運転の普通乗用車が歩道を歩行中の幼稚園児 5 歳に衝突し、幼稚園児が両肺損傷により死亡。

発生特徴（基礎データ平成 23 年）

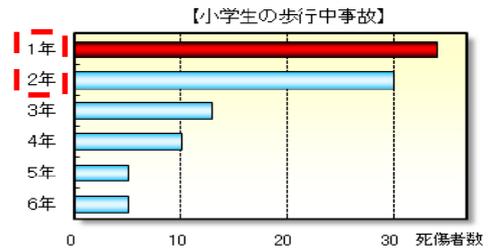
- 学齢別の死傷者数では、小学生が約半数（381 人 46.6%）と最も多く、次いで中学生（225 人 27.5%）が多い。
- 状態別の死傷者数では、四輪者同乗中が半数以上（445 人 54.5%）と最も多い。このうち 141 人が 6 歳未満のチャイルドシート着用対象者だが、着用率は 87.2%とシートベルト着用率（92.9%）を下回っている。

【状態別死傷者数】

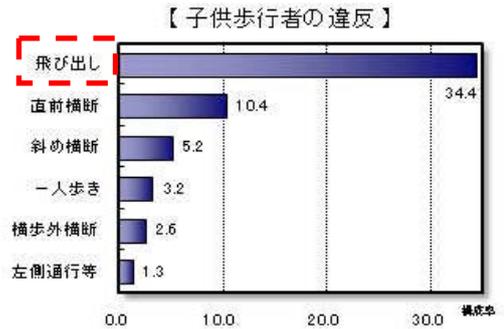
区分	未就園児	就園児	小学年							中学生	合計	構成率
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			
歩行中	14	15	34	30	13	10	5	5	97	28	154	18.8
自転車	6	6	11	8	18	21	21	16	95	110	217	26.6
四輪同乗	107	63	38	33	36	30	24	27	188	87	445	54.5
二輪同乗								1	1		1	0.1
合計	127	84	83	71	67	61	50	49	381	225	817	100.0
構成率	15.5	10.3	10.2	8.7	8.2	7.5	6.1	6.0	46.6	27.5	100.0	



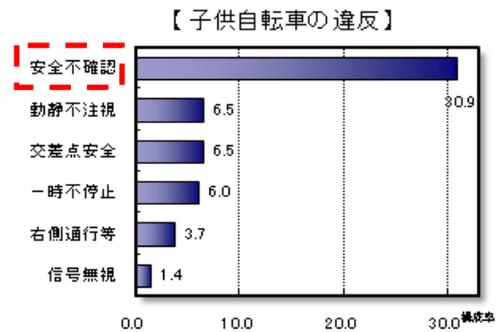
- ・ 学齢別別・状態別の死傷者数では、歩行中の小学生1年生、2年生の死傷者が多い。



- ・ 歩行中の死傷者の約6割（154人中92人59.7%）が違反。このうち、飛び出し（53人）が多く、小学生男子の発生が多い。



- ・ 自転車乗用中の死傷者の6割以上（同乗者を除く205人中128件62.4%）が違反。「安全不確認（67人）」によるものが多い。



（参考）「自転車の交通事故発生状況（基礎データ平成23年中）」

[http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/kikaku/shiboutoku/jiko\\_tokutyou/h24/jitennsha.pdf](http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/kikaku/shiboutoku/jiko_tokutyou/h24/jitennsha.pdf)

- ・ 自転車関係事故による死傷者の年齢別では、15歳～19歳が約4分の1を占め、各年齢層中最も多い。また、学齢別においては、高校生が18.1%と最も高くなっている。



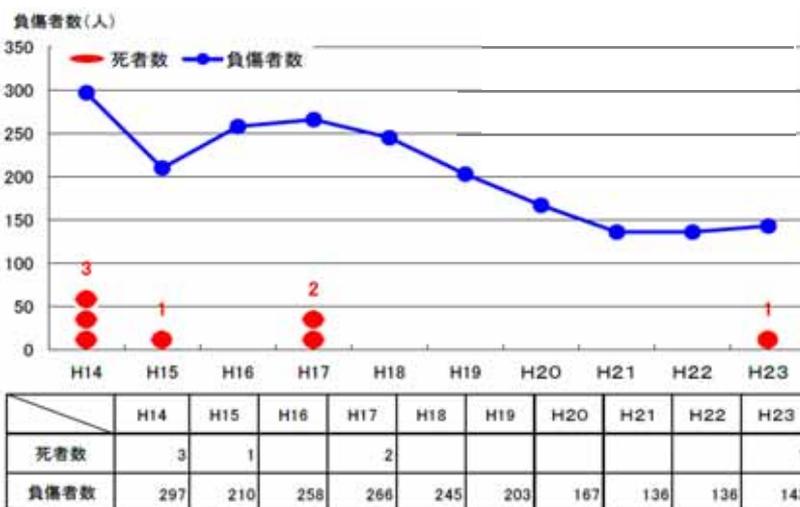
(5) 鳥取県警察の分析事例

鳥取県警察「交通年鑑（平成 23 年版） ～子ども（中学生以下）の交通事故」

[http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/306316/%E5%9B%B3%E8%A7%A3%E5%B9%B4%E9%91%91\(h23\)hp%20.pdf](http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/306316/%E5%9B%B3%E8%A7%A3%E5%B9%B4%E9%91%91(h23)hp%20.pdf)

発生状況

- ✓ 負傷者数について、平成 18 年以降、減少傾向で推移。平成 23 年は 7 名増加に転じた。
- ✓ 死者数について、平成 17 年以来、6 年振りに死亡事故が発生した。

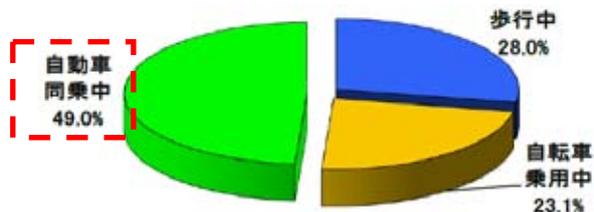


発生特徴

- ✓ 学齢別の負傷者数では、小学生が最も多い。

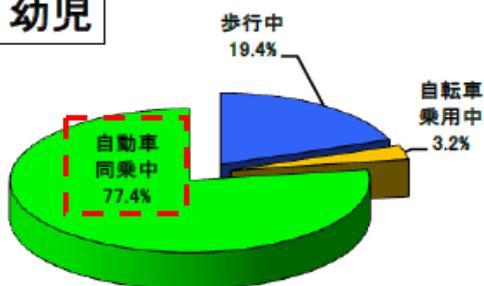


- ✓ 状態別の死傷者数では、自動車同乗中が最も多い。

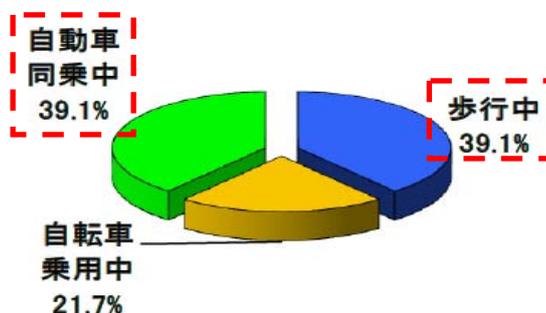


- ✓ 学齢別・状態別の死傷者数では、幼児は自動車同乗中が最も多く、小学生は自動車同乗中及び歩行中が多く、中学生は自動車同乗中が最も多い。

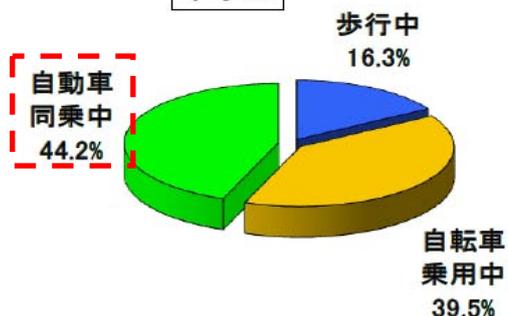
幼児



小学生



中学生



(6) 大都市圏・地方圏での子どもの交通事故の特徴の相違

大都市圏・地方圏とも、子どもの交通事故は、16～18時の時間帯で多く、小学生では歩行中、中学生では自転車乗用中が多い。

ただし、事故発生時の状態で比較すると、大都市圏（警視庁・神奈川県・兵庫県）では「自転車乗用中」が最も大きな割合を占めているのに対して、地方圏（宮城県・鳥取県）では「自動車乗車中」が最大の割合を占めている、という相違が見られる。